

緩和医療学/臨床腫瘍学

責任者：臨床腫瘍学講座 板持 広明 教授

学修方針（実習概要等）：

がん患者の診察・回診を行い、個々の問題点を抽出して EBM に基づいた検査計画や治療方針を立案するほか、症例検討を通じて、薬物療法、緩和ケア、チーム医療、患者とのコミュニケーションの重要性について学ぶ。

教育成果（アウトカム）：

臨床の現場を実際に体験し、これまでに学んできた基礎・臨床医学の基礎知識を再構築し、緩和医療・臨床腫瘍診療において基本的問題解決に必要な基礎知識と包括的対処法を習得する（ディプロマポリシー：1,2,3,4,5,6,7,8）。

到達目標：

外来・病棟実習

- * 1. 患者の病歴を聴取し、その医療情報を説明できる。
- * 2. 理学所見と全身状態より患者の状態を説明できる。
- * 3. がんの診断に必要な検査法とその所見を説明できる。
- * 4. がんの治療法と集学的治療の理念、目的、意義について説明できる。
- * 5. がん薬物療法の副作用と支持療法を説明できる。
- * 6. がん薬物療法におけるチーム医療の意義と重要性を説明できる。
- * 7. 緩和ケアについて、その理念、目的、意義について説明できる。
- * 8. 全人的な“いたみ”を理解し、その評価方法と対応方法を説明できる。
- * 9. 患者および家族とのコミュニケーションの重要性を説明できる。
- * 10. がん性疼痛の実践的な基礎知識を説明できる。
- * 11. 緩和ケアに関わる多職種(医師、看護師、薬剤師、MSW, 臨床心理士ほか)それぞれの役割について理解し、協働することの重要性を説明できる。

特に留意すべき注意事項：

緩和医療学

1. 実習第 1 日目(月曜日、月曜日が休日の際は火曜日)午前 8：40 に東 10 階緩和ケア病棟に集合し病棟申し送りに参加する。引き続き緩和ケアチームミーティングに参加しチーム回診に同行する。その後、緩和ケア病棟回診ならびに入棟患者及び家族への病状説明・あるいは緩和ケア外来の見学を行う。
2. 昼食後、午後は病棟カンファレンスに参加し、その後に指導教官によるミニレクチャーを受講する。
3. 実習期間中に症例検討を行い、患者の「全人的なつらさ」に焦点を当てたアセスメントとマネジメントの方法について考察する。
4. 水曜日の午後に、実習期間中の学習に関する口頭試問を行う。

臨床腫瘍学

1. 実習第3日目（水曜日）午前 8:45 から、臨床腫瘍学講座の医局において臨床腫瘍学実習のオリエンテーションを行う。
2. 第 1,3 週の水曜日 7:30 からに開催される「カンサーボードミーティング」に参加する。
3. 実習期間中に各人 1 症例を担当し、診療内容を診療録に記載し、治療と支持療法についてまとめ、質疑応答を行う。
4. 金曜日の 4 時限目に口頭試問、及び実習のまとめを行う。

事前学習内容および事前学修時間：

シラバスに記載されている各実習内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行い、医療面接・診察など基本的臨床技能実習で修得した手技について再確認をすること。また、実習前に e ポートフォリオ（WebClass）「日々の振り返り 今日の目標」にて、事前学修内容を踏まえた自己到達目標を設定し実習へ臨むこと。各実習に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全実習に対して該当するものとする。なお、適宜 e ポートフォリオ（WebClass）を通し個人に対する実習のフィードバックを行う。実習では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

第4・5学年臨床実習スケジュール〔緩和医療学/臨床腫瘍学〕

指導医師名：①木村祐輔特任教授 ②板持広明教授 ③岩谷岳特任教授 ④鴻巣正史講師 ⑤中村聖華助教 ⑥遠藤史隆講師

曜	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
月	オリエンテーション 緩和ケアチーム実習	緩和ケア病棟実習 緩和ケア外来実習	病棟カンファレンス	ミニレクチャー
[場 所] [指導医]	[緩和ケア病棟・一般病棟] ①④⑤	[緩和ケア病棟・緩和ケア外来] ①④⑤	[緩和ケア病棟] ①④⑤	[緩和医療学科医局] ①④⑤
火	緩和ケアチーム実習	緩和ケア病棟実習 緩和ケア外来実習	病棟カンファレンス	ミニレクチャー
[場 所] [指導医]	[緩和ケア病棟・一般病棟] ①④⑤	[緩和ケア病棟・緩和ケア外来] ①④⑤	[緩和ケア病棟] ①④⑤	[緩和医療学科医局] ①④⑤
水	オリエンテーション (第 1,3 週 キャンサーボード)	病棟実習	病棟カンファレンス	口頭試問／実習のまとめ
[場 所] [指導医]	[臨床腫瘍学講座医局] ②⑥	[臨床腫瘍学科病棟] ②③⑥	[緩和ケア病棟] ①⑤	[緩和医療学科医局] ①⑤
木	症例検討	病棟実習	病棟実習	病棟実習・診療録記載
[場 所] [指導医]	[臨床腫瘍学講座医局] ②⑥	[臨床腫瘍学科病棟] ②③⑥	[臨床腫瘍学科病棟] ②③⑥	[臨床腫瘍学科病棟] ②③⑥
金	症例検討・診療録確認	病棟実習	症例発表	口頭試問／実習のまとめ
[場 所] [指導医]	[臨床腫瘍学講座医局] ②⑥	[臨床腫瘍学科病棟] ②③⑥	[臨床腫瘍学講座医局] ②③⑥	[臨床腫瘍学講座医局] ②③⑥

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	台数	使用目的
視聴覚用機械	液晶ディスプレイ	2 台	講義・症例検討
視聴覚用機械	パソコン一式 (MACPro)	3 台	講義・症例検討
視聴覚用機械	ノートパソコン (LIFEBOOK)	数台	講義・症例検討
そ の 他	ホワイトボード	2 台	講義・症例検討

教科書・参考書等：

- ・新臨床腫瘍学 改訂第5版 日本臨床腫瘍学会編 南江堂.
- ・がん診療レジデントマニュアル 第7版 国立がん研究センター内科レジデント編 医学書院.

成績評価方法

臨床実習評価は以下の項目について 100 点満点で評価する。

1. 知識：15 点
2. 態度：30 点
3. 技能試験：20 点
4. ポートフォリオ：20 点
5. 指導医評価：15 点